広報紙

北海道

ほっかいどう

その先の、道へ。北海道　Hokkaido. Expanding Horizons.

3
March 2023
令和5年2月発行
vol.249

ZERO CARBON HOKKAIDO

地域の未来を創る
ゼロカーボン北海道

「ゼロカーボン北海道」についてNORD（ノール）が動画で紹介！

NORD（ノール）
北海道出身の4人組ボーイズユニット。北海道を拠点に全国のテレビ・ラジオなどで活躍中。
左から、安保（あんぼ） 卓城（たくしろ）さん、瀧原（たきはら） 光（ひかる）さん、島（しま） 太星（たいせい）さん、舟木（ふなき） 健（たける）さん

ゼロカーボン北海道特設ウェブサイト
ゼロカーボンの未来をかたりあう。
ZERO CARBON HOKKAIDO CAFÉ

特設ウェブサイトはこちらから。NORDの動画もご覧いただけます。

北海道庁メディアポータルサイト
ミササル。
Hokkaido Government Media Portal Site

ミササルはこちらからご覧いただけます。

広報紙「ほっかいどう」ウェブサイト

特集 地域の未来を創るゼロカーボン北海道

ゼロカーボン北海道の実現に向けて、いまできることを考えてみませんか。

脱炭素先行地域の一つ、鹿追町のバイオガスプラント
【取り組みは3ページをご覧ください】

特集に関する問い合わせ／道庁ゼロカーボン戦略課　TEL 011-204-5334

近年、地球温暖化による気温の上昇や集中豪雨の発生など、気候変動の影響が大きくなっています。気候変動は、農業・漁業への被害や大雨などの災害を引き起こし、仮に現状のままで何も対策をしなければ、将来の北海道の気温は42℃を超えるという予測もあります。気候変動を食い止めるには、その原因となる二酸化炭素（CO_2）などの温室効果ガスを減らすことが重要です。

北海道の再生可能エネルギーのポテンシャルの高さは全国随一

北海道は豊かな自然や地域資源により、太陽光発電や風力発電、中小水力発電の導入ポテンシャルが全国1位となるなど、全国随一の再生可能エネルギーのポテンシャルを有しています。

道では、こうした再生可能エネルギーと広大な森林などの吸収源を最大限活用し、温室効果ガスの排出量を2030年度までに2013年度比48％削減、2050年に実質ゼロとし、環境保全の取り組みと経済の成長・発展を同時に進め、「ゼロカーボン北海道」の実現を目指しています。

さらに北海道には、国が選ぶ脱炭素先行地域が全国最多の5カ所もあります（2022年11月1日現在）【3ページ参照・鹿追町の取り組み】。

今後は、こうした再生可能エネルギー生産能力と冷涼な気候を生かし、北海道にさまざまな企業のデータセンターを誘致したり、光海底ケーブルを整備して通信環境を強化する取り組みを進めていきます。

北海道の再エネポテンシャルとCO₂削減目標

再エネのポテンシャルが全国随一

- ●風力発電 全国1位
- ●太陽光発電 全国1位
- ●中小水力発電 全国1位
- ●地熱発電 全国2位

中期目標（2030年度） 2013年度比　（万トン-CO_2）

2013（基準年度）	排出量（7,369）
2030（中期目標）	排出量（3,788）　48%削減

脱炭素先行地域 2022年11月1日現在

ゼロカーボン北海道の実現に向け私たちができること

私たちのライフスタイルは、気候変動への影響とその対策に密接なつながりがあります。

衣・食・住・交通など、私たちが普段の生活の中で消費する製品・サービスのライフサイクル（製造、流通、使用、廃棄などの各段階）において生じる温室効果ガスが、わが国全体の排出量の約6割を占めているといわれています。（一人当たり年間7.6トン-CO_2排出（2017年））【図1参照】

私たちが、生活の中でちょっとした工夫をしながら、無駄をなくし、環境負荷の低い製品・サービスを選択することで、CO_2削減に大きく貢献することができます。

ゼロカーボン北海道の実現に向けて、あなたもできることから脱炭素型ライフスタイルに取り組んでみませんか。

広告

※この広告は、広告主の責任において掲載しております。

できることから、あなたもゼロカーボンにチャレンジ!

☑みんなでチェックして、チャレンジしてみよう

住

- □太陽光発電を設置
  電気代が年間約53,000円お得、災害時にも使える※1
- □省エネ家電への買い替え（エアコン・冷蔵庫、HEMS）
  電気代が年間約28,000円お得※1
  ※HEMSとは、家庭で使うエネルギーを節約するための管理システム
- □省エネ住宅への引っ越しや断熱リフォーム
  光熱費が年間約94,000円お得、寒暖差が少なくヒートショック防止も※1
- □電球のLED化
  電気代が年間約3,360円お得（54Wの白熱電球から9Wの電球形LEDランプに交換した場合）※2

交通

- □マイカーを次世代自動車に買い替え
  維持費が年間約75,000円お得、災害時の電源としても活用可能※1
- □テレワークの実施
  通勤目的の移動をゼロに
- □エコドライブの実践
  ふ～んわりアクセル　ガソリン代が年間約13,814円お得（発進から5秒で時速20kmの加速を意識した場合）※2

衣

- □ウォームビズ
  部屋着にも工夫をして体感温度を上げよう。カーディガンで+2.2℃、ひざかけで+2.5℃※2

食

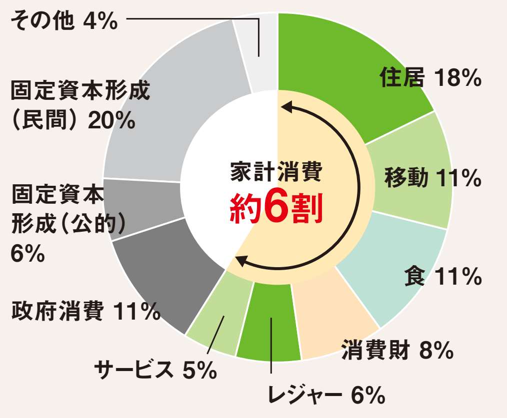
- □地元の食品や旬の食材を食べよう
  新鮮で安心な食材で健康的な食生活をしながら地域にも貢献。輸送で出るCO₂が少なく環境にも優しい

ごみ

- □プラスチックごみの削減、マイボトルを持ち歩こう
  プラスチック生産時に出るCO₂を削減

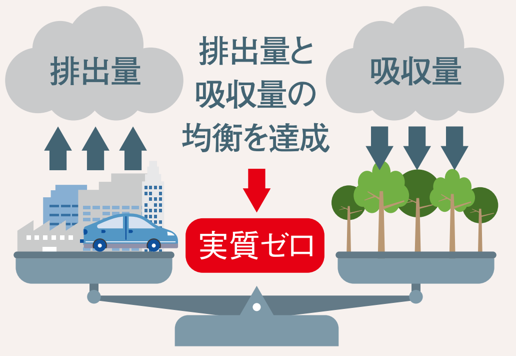
出典：※1 脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動（環境省）　※2 おうちで省エネ（北海道経済産業局）

図1　消費ベースでの日本のライフサイクル温室効果ガス排出量



資料：南斉規介（2019）産業連関表による環境負荷原単位データブック（3EID）（国立環境研究所）、Nansai et al.（2020）Resources, Conservation & Recycling 152 104525、総務省（2015）平成27年産業連関表に基づき国立環境研究所および地球環境戦略研究機関（IGES）にて推計

2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロに!
（ゼロカーボン北海道の達成イメージ）



脱炭素化と経済活性化を同時に推進!

ゼロカーボン北海道CAFÉ開催!

ゼロカーボンの未来をかたりあう。

ZERO CARBON HOKKAIDO CAFÉ

道内5地域で、ゼロカーボン北海道を「見る・知る・学ぶ」の体験ができるイベントを開催します。ゼロカーボンに取り組む企業や団体と連携したさまざまな体験コンテンツやステージイベント、プレゼントなど楽しい企画が盛りだくさん。ぜひご来場ください。

函館会場	2/18（土）・19（日） 函館蔦屋書店 2階イベントスペース
帯広会場	2/25（土）・26（日） 長崎屋帯広店 2階センタープラザ
北見会場	3/11（土）・12（日） コミュニティプラザParabo 5階催事場
釧路会場	3/11（土）・12（日） イオンモール釧路昭和 1階サンコート広場
旭川会場	3/18（土）・19（日） イオンモール旭川駅前 1階スペース

ゼロカーボン北海道を考えるきっかけとなる動画や、ゼロカーボン北海道CAFÉの詳細などはこちらから

NEWS

G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合を4月に開催!

ことし5月開催のG7広島サミットに係る関係閣僚会合として「G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」が4月15日（土）、16日（日）の2日間、札幌市で開催されます。フランス、アメリカ、イギリス、ドイツ、日本、イタリア、カナダ、EUに加え、招待国・機関が参加する予定です。

気候・エネルギー・環境大臣会合とは?

G7サミットに関係する14の閣僚会合の一つ。気候やエネルギー、環境に関する課題に対して、G7が団結・協力して取り組む事項などをまとめた合意文書の発出を目指します。

広告

※この広告は、広告主の責任において掲載しております。

特集 地域の未来を創るゼロカーボン北海道

地域でゼロカーボンに取り組んでいます!

バイオガスプラントを核に「鹿追型ゼロカーボンシティ」を推進

●取り組みの背景は?

鹿追町は、農業と観光を基幹産業とする人口約5,200人のまち。貴重な自然を守り、持続可能な産業と社会づくりを目指すうえで「環境」は重要なテーマです。

2021年には、十勝管内で初めて、2050年までの脱炭素化を目指す「鹿追型ゼロカーボンシティ」への挑戦を表明。2022年4月には、環境省の脱炭素先行地域に選定され、ゼロカーボンの取り組みが加速しました。

鹿追町企画課企画係 ICT・エネルギー担当係長 林 大介（はやしだいすけ）さん

●「鹿追型ゼロカーボンシティ」とは?

酪農の家畜ふん尿処理を行うバイオガスプラントを核として、そこで生産している「電気・熱・水素」などの多様なエネルギーを循環させるしくみを確立します。さらに、地域特性を生かして、太陽光発電や地中熱に加え、水素燃料電池や精製メタンなど、再生可能エネルギーの最大活用を進めています。

「しかおい自営線ネットワーク」の太陽光発電施設（令和4年度新エネ大賞受賞）

国内初の家畜ふん尿を活用した水素ステーション（町内に20台の水素燃料電池自動車がある）

こうした中、水素などの脱炭素自動車や省エネ家電の導入を促す町民向け補助金の利用件数が伸びているほか、役場職員に徒歩・自転車通勤を推奨するプロジェクトが成果を上げています。町民の環境意識の高さをどのように行動につなげるかが大切だと考えています。今後も、町全体で環境価値の向上による新たな地域づくりを進めていきます。

高校生がSDGsをテーマに地域課題を探究

2022年7月から、留萌教育局が取り組んできたのが「留萌高校×北海道大学SDGsゼロカーボンプロジェクト」。SDGsの研究を進める留萌高校1・2年の生徒10人が、北海道大学の学生と一緒に管内の風力発電施設と2つのごみ処理施設などを見学するフィールドワークを重ね、地域の課題を探っていく研究活動です。ことし2月には、管内や全道のセミナーで研究成果を発表。プロジェクトに参加した高校生にお話を聞きました。

●これまでの活動内容と手応えは?

7月に北海道大学でSDGsの講義を受け、10月には留萌管内の風力発電施設、資源化施設、最終処分場をみんなで見学しました。普段入ることのできない施設なので、驚くことばかり。風力発電施設では、留萌の風の強さはデメリットばかりではなく、エネルギーを生む地域資源なんだと感動しました。また、資源化施設では、正しく捨てられなかったごみの再分別に労力を使っていると知ってショックを受けました。最終処分場でごみの山を見て「自分の家はどうだろう」と思い、ごみの出し方を家族と一緒に見直したりもしました。

留萌高等学校 1年 田中 詩織（たなか しおり）さん

最終処分場で埋め立ての現状を学習

●今後の活動は?

大学生と一緒に活動したことで、SDGsと地域課題について多くの視点を学ぶことができました。私たちが見たことや感じたことを、成果発表などで多くの人たちにわかりやすく伝えたいと思います。

苫前町にある風力発電施設

全道に広がってほしいね!

檜山振興局 みんなでゼロカーボンドライブ! 再エネ電気自動車の休日有料レンタルを始めます

檜山振興局では、ことし3月からゼロカーボンEV体験の取り組みを開始します。この取り組みは、公用車として導入した電気自動車（EV）2台を、振興局の閉庁日等に、地域住民の皆さん、旅行や仕事などで檜山に訪れる皆さんに有料でお貸しし、今後、普及が期待されるEVの試乗体験を行うことで、地域の脱炭素化を効率的に推進する試みです。

導入するEVには、敷地内に新設する太陽光発電設備付きのカーポートから電気を供給するため、再生可能エネルギーのみで運行する環境に優しいゼロカーボンドライブを実現します。

また、太陽光で発電した電気は、庁舎内での利用や災害時の非常電源としての活用も想定しており、電気料金の節約や災害時対応の強化にもつながります。

完成イメージ図

問い合わせ先／檜山振興局環境生活課
TEL.0139-52-6492

広告

※この広告は、広告主の責任において掲載しております。